

第2章

計画の基本的な考え方

第2章 計画の基本的な考え方

1 「教育都市としま」の実現に向けて

豊島区基本計画（平成18年3月）の実実施計画である未来戦略推進プランは、目指す豊島区の姿を「文化と品格を誇れる価値あるまち」とし、「子育て・教育」「福祉」「安心・安全」「参加と協働」の4つの基本政策を掲げている。新教育ビジョンはこれらの計画を踏まえ、「教育都市としま」の実現に向けた理念と教育課題及び各分野別実施施策を示したものである。

「教育都市としま」は、明治、大正、昭和の時代を経て、公立私立の学校教育発祥の地としての歴史と伝統を継承してきた。さらに近年、文化芸術創造都市（平成20年度）の称号を得、高密度都市としての利便性を有するようになり、幼児教育から大学教育まで公立・私立を問わず、多様な選択肢を備えた教育都市として発展してきている。

この都市に生まれ育つ子どもたちは、新たな文化を創造し、品格ある都市づくりに携わる地域社会の一員である。同時に、誇れる地域社会を将来受け継ぎ、次代を担う主体となる存在でもある。新教育ビジョンは、子どもたちが日本や地域の歴史と伝統を敬いつつ、郷土への愛着と誇りを持って生きる力と確かな学力を身に付けられるよう、「教育都市としま」の在り方を方向づけ、価値づけることを目的としている。

教育は、人づくり、夢づくり、そして21世紀の日本と「教育都市としま」の形を創る営みである。そのためには、常に、普遍的かつ個性的な文化の創造と豊かな社会の実現を目指し、自主的精神に満ちた健全な人間の育成と、我が国の歴史や文化を尊重し国際社会に生きる日本人、豊島区民の育成を期して行わなければならない。

同時に、経済・社会のグローバル化、情報技術革命、地球環境問題、少子高齢化など、時代の変化に主体的に対応し、日本と豊島区の未来を担う人間を育成することが重要になっている。

新教育ビジョンは、「子どもに意欲と学びがい、教師に教えがい、学校に元気を！」を合言葉に、活力と魅力ある教育を推進し、区民の信頼をゆるぎないものにする「教育都市としま」の実現を目指している。

2 教育目標と計画が目指す「子ども像」

豊島区教育委員会は、幼児・児童・生徒に対する本区の教育が目指すべき目標として、以下のように教育目標を定めている。

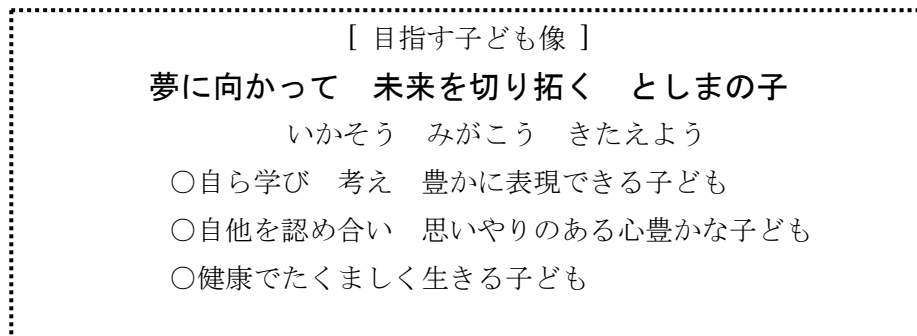
豊島区教育委員会は、幼児・児童・生徒（以下、「子ども」という。）が知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 地域社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造性豊かな人間

の育成に向けた教育を重視する。（後略）

（平成22年2月9日 豊島区教育委員会決定）

この教育目標を実現するため、新教育ビジョンが目指す具体的な子ども像を以下のように規定した。



3 子ども像を実現するための教師像と学校像 及び期待される家庭の役割と地域の役割

新教育ビジョンが目指す子ども像の実現には、学校教育の担い手である教師の資質、能力に負うところが極めて大きい。また、学校だけでなく、教育活動の円滑な推進のためには地域との緊密な連携及び協力が不可欠である。

そして、なによりも、子どもの教育の第一義的な責任は家庭にあることから、家庭がその本来の役割と責任を果たすことができるよう学校や地域が支援していく必要がある。

そこで、子ども像を実現するために、教師及び学校のあるべき姿を示すとともに、家庭及び地域に期待される役割を以下のように想定する。

<図表 11> 目指す子ども像と、子ども像を実現するための教師像、学校像
及び期待される家庭の役割と地域の役割

